

第13回WHC42会開催記録（2019年4月2日）

午前9時55分、14人が東京メトロ茗荷谷駅に集合して播磨坂に向かいました。



播磨坂は、この地にあった松平播磨守の上屋敷にちなんで名付けられたもので、1960(昭和35)年に坂の舗装が行われた際に、桜の木が植えられたのが始まりだそうです。今年の東京の桜は、昨年より遅かったものの平年より5日も早く開花して3月27日には満開となりましたが、その後冷え込む日が続いたおかげで、この日まで見頃が続いていました。青空の下、両側にずらりと提灯が吊り下げられ、夜の宴会の場所取りのブルーシートが敷かれたお花見気分満点の遊歩道を歩き、「42会では久しぶりに満開どんびしゃの桜を見られた」という声も聞こえました。ソメイヨシノを中心に約120本といますから、さほど多くはありませんが、500mの坂道の両側と中央分離帯部分にかなり密に植えられているので、なかなか見応えがありました。

ゆるやかな坂を下り切って、次の目的地、小石川植物園(正式には「東京大学大学院理学系研究科附属植物園」)に入りました。入って間もなくの見事な桜の下で集合写真を撮ってから、ニュートンのリンゴやメンデルのブドウなどを興味深く眺めました。芝生広場の桜並木は、かなり低いところまで桜の



枝が垂れていて、シートを敷いて楽しむ家族連れが見られました。桜の他にもツツジやコブシ、ミツマタ、キブシ、ヤマブキなどの花木が咲き、まだ花の数は少ないですが山野草も見られました。奥には日本庭園などもありますが、40分ほどの滞在時間では広大な園内はとて回りきれぬものはありません。我々と同年配のグループも多く訪れていましたが、平日とあって混雑ということはありませんでした。

春の花に酔った播磨坂と小石川植物園での散策を終え、湯立坂を登って茗荷谷駅近くまで戻り、午前11時半、会食会場の「庄や」に入りました。掘りごたつに足を突っ込んで7人ずつで2つのテーブルを囲み、開会前に昨年逝去が確認された石川倫康君の冥福を祈って黙祷を捧げた後、例年どおり42会産みの母・緞(日向寺)の開会宣言、次いで前日朝のNHKBSの報道番組で愛娘さんがメインキャスターデビューをした西海の発声による乾杯で大宴会の開始となりました。42会史上初の居酒屋利用となった会食でのコース料理は刺身、焼き物、煮付け、天ぷら盛り合わせ、握り寿司など8品に各種アルコール、ソフトドリンクの飲み放題付き。ひとしきり飲み食いしたところで、各人の近況報告へと進みました。日々の生活の中での趣味の話題、体調の話等が中心で、中には厳しい登山の話もありましたが、お



むね穏やかな老後の毎日を過ごしている様子が見て取れました。さらに席を適当に移動して楽しく賑やかな宴を続けて計3時間近く、徳淵(播磨坂にちなんで、多少こじつけ気味ながら播磨の隣の摂津の住人)の音頭で1本締めをし、2次会場の喫茶店に場所を移しました。ここでもコーヒー、紅茶1杯でさらに1時間半のおしゃべり、20年先の42会の話題まで出ましたが、とりあえず来年「令和」第1回の花見での再会を約して散会しました。

播磨坂(は・り・ま・さか)を折り込み詠める・・・

「花に酔うたら 料理だ酒だ ますます我らは 盛んなり」

(五十嵐昭)